

学校の教育目標 自ら考え、適切な判断を行い、行動する児童生徒の育成
学校経営ビジョン 「幸せな子ども」ではなく「幸せになれる子ども」の育成

自己評価及び学校関係者評価： A（目標を十分に達成している） B（目標を概ね達成している） C（目標達成の取組や方法に改善の必要あり）

重点目標	目標達成のための手段	取組状況・成果・課題・改善策等	自己評価	評価	学校運営協議会委員コメント
学力向上 ～個別最適な学び～	(1) 子ども主体の授業（わさび）の推進 (2) ICTを活用した個別最適化の授業 (3) スクリーニングテスト等の結果を生かした学習のUD化及び日々の授業改善	○ 校内研究に「個別最適な学び」を位置づけ、授業改善を図ることができた。 ○ ICT機器を効果的に活用することができ、子ども主体の授業を実践することができた。 ○ 入園時のスクリーニングテストの結果を基に、個別の対応策を全職員で共通理解し、授業に生かすことができた。 ● 状態の変化が著しい生徒への対応の工夫が必要。	A	A	○ 数値的な学力は不明だが先生方と生徒が接する姿を見る限りでは「A」に値する。 ○ 1人1台端末をうまく活用している。生徒が「授業が楽しい。」と感じていることが「授業は分かる。」につながっていくはずである。
豊かな心の育成 ～特別支援教育の視点を踏まえた取組推進～	(1) 学園と連携した肯定的な行動支援の推進（SWPBS:「目標」「活動」「振り返り」） (2) 個別支援計画「振り返り」による支援の変更・調整（「目標」「活動」「振り返り」） (3) 全職員参加型による道徳、SST等の授業 (4) いのちの教育及びSOSの出し方教育の推進	○ 個別の指導計画の短期目標に対する評価を数値化し、毎月の個別の振り返りの面談時にフィードバックすることで、学園と連携した一貫した指導・支援が行えた。 ○ 道徳・SSTの授業を全職員で計画的に実施できた。 ● 困難な状況になったときに、周りに助けを求めるなどの問題解決を図っていくための指導の更なる充実が必要。	A	A	○ 道徳の授業を、職員がローテーションで行っているのは、いろいろな大人の価値観に触れさせることができるいい取組。 ○ 様々な場面で「振り返り」の時間を設定しているのはいい取組。 ○ 周りに助けを求めることを身につけさせるのは、容易ではないが身につけさせてほしい。
健やかな体の育成	(1) 学園と連携した食育及び性（生）教育の推進（学園担当との連携システムの構築・推進） (2) 学園と連携した細やかな状態の把握（朝礼での状況報告、合同寮会等） (3) 学園と連携した部活動システムの整理	○ 外部から講師を招聘し、産婦人科医による講話、味覚の授業、栄養教諭による講話を実施し、健康課題について考える機会となった。 ○ 朝礼において学校と寮とで互いの状況を報告しあうことで、細かな状態の把握に努めることができ、状態を踏まえた指導・支援を行うことができた。 ○ 部活動方針をリニューアルすることができた。 ● 講話で学んだことを日常生活で実践していけるような日常の指導の徹底が必要。	B	A	○ 養護教諭と栄養教諭が不在の中だが、多くの取組を行っている。 ○ 専門的なアプローチに欠ける部分はあるが、その分、子どもたちの状況を把握しながら実践している。
学園（保護者）・原籍校・関係機関・地域との連携・協働 ～心のふるさとづくり～	(1) 学校運営協議会を生かした取組推進 (2) 「貢献」を意識した取組推進 (3) 復学を目指した関係機関等との連携	○ キャリア教育の授業に学校運営協議会委員に参加していただき、生き方について語り合うことで、今後の人生について考える機会となった。 ○ ふれあい祭、鑑賞教室など多くの行事に地域の方々に参観していただき、生徒にとっては、自分たちのがんばる姿を地域の方が楽しみにしていることを実感する機会となった。	A	A	○ 地域の方も本校の行事を楽しみにしており、いい関係ができています。 ○ 地域を巻き込んでいい取組ができています。